

岡山県感染症週報 2015 年 第 21 週 (5 月 18 日～5 月 24 日)

◎岡山県は『インフルエンザ注意報』を解除しました。(5 月 28 日)

◆2015 年 第 21 週 (5/18～5/24) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 19 週	2 類感染症	結核	1 名 (70 代 女)
	5 類感染症	梅毒	1 名 (30 代 男)
第 20 週	2 類感染症	結核	4 名 (20 代 女 2 名、30 代 男 1 名、70 代 男 1 名)
	5 類感染症	梅毒	1 名 (60 代 男)
第 21 週	2 類感染症	結核	5 名 (20 代 男 2 名、60 代 男 1 名、70 代 男 1 名、 90 代 男 1 名)
	4 類感染症	E 型肝炎	1 名 (60 代 男)
	5 類感染症	アメーバ赤痢	1 名 (50 代 男)
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1 名 (90 代 女)

■定点把握感染症発生状況

- インフルエンザは、県全体で 68 名 (定点あたり 0.96 → 0.81 人) の報告があり、前週より減少しました。
- 感染性胃腸炎は、県全体で 379 名 (定点あたり 6.24 → 7.02 人) の報告があり、前週より増加しました。

【第 22 週 速報】

- 高梁市内の小学校 1 校で、インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業がありました。(5 月 27 日)

1. [インフルエンザ](#)は、県全体で 68 名 (定点あたり 0.96 → 0.81 人) の報告があり、前週より減少しました。岡山県では、2 週連続して定点あたり報告数が 1 人を下まわったため、5 月 28 日「インフルエンザ注意報」を解除しました。県内の発生状況など、詳しくは「[インフルエンザ週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2014/2015 年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。
2. [感染性胃腸炎](#)は、県全体で 379 名 (定点あたり 6.24 → 7.02 人) の報告があり、前週より増加しました。地域別では、真庭地域 (12.50 人)、備北地域 (8.50 人)、倉敷市 (8.18 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など、詳しくは「[感染性胃腸炎週報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ『[2014/2015 年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★
感染性胃腸炎		★★★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★	百日咳		★
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎			クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移：
 : 2 倍以上の減少 : 1.1～2 倍未満の減少 : 1.1 未満の増減
 : 1.1～2 倍未満の増加 : 2 倍以上の増加

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

◆◆◆ 6/1～6/7は『HIV 検査普及週間』です ◆◆◆ 『受けよう! エイズ検査 愛する人のために、そして自分のために』

岡山県は、『受けやすい検査』『戦略的な普及啓発』『関係者の連携強化』の3つを柱とし、全県を挙げて、HIV 感染防止と「いきなりエイズ」防止に取り組む、「おかやまエイズ感染防止作戦」を平成25年度から実施しています。その作戦の重点実施期間として「HIV 検査普及週間（6/1～6/7）」には、県内の保健所・支所において、即日検査や夜間・休日検査の追加実施を行います。

1. 全国の新規 HIV 感染者と新規 AIDS 患者

平成26年の国内における新規 HIV（ヒト免疫不全ウイルス）感染者及び新規 AIDS（後天性免疫不全症候群）患者（※いきなりエイズ）報告数は1,546件であり、近年横ばいで推移しています。特に、新規 AIDS 患者報告数（いきなりエイズ）が、全新規報告数の約3割のまま推移しており、HIV 検査が未だ十分に行き届いていないことが示唆されています。

新規 HIV 感染者……感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届により、無症候性キャリアあるいはその他として報告されたもの。

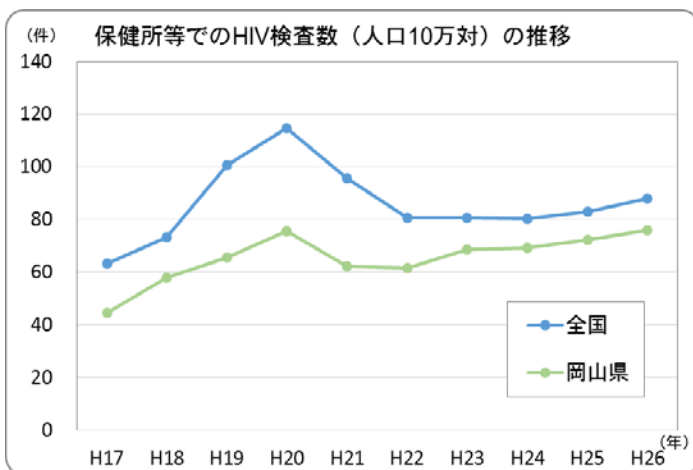
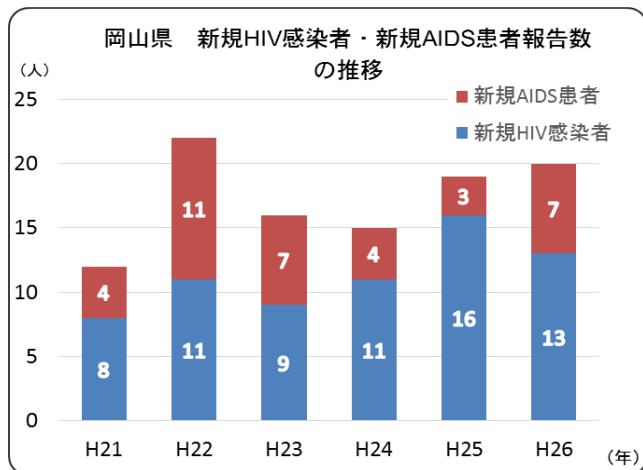
新規 AIDS 患者（いきなりエイズ）……受診時、すでに AIDS を発症しており、感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届により、AIDS 患者として報告されたもの（既に HIV 感染者と報告されている症例が AIDS を発症する等病状に変化を生じた場合は除く。）

※「いきなりエイズ」とは、AIDS 発症によって初めて HIV に感染したことが判明することです。

HIV 感染後 AIDS 発症まで、通常数年程度の期間を要するとされていますが、近年発症の早い症例もみられています。

2. 岡山県の新規 HIV 感染者と新規 AIDS 患者

新規 HIV 感染者及び新規 AIDS 患者は、20～40 代の男性を中心に発生が多くなっており、平成26年は20件の報告がありました。その内「いきなりエイズ」が7件と、前年より増加しています。岡山県内で自発的に HIV 検査を受けた人の数は、全国と比較して少なくほぼ横ばい状態です。



3. HIV 検査について

AIDS は、HIV に感染してから AIDS 発症まで数年程度と、ある一定期間自覚症状がない時期が続くため、感染していることに気づきにくく、知らないうちに大切な人にうつしてしまう可能性があります。また、HIV 治療は急速に進歩しており、早期に感染を知り発症する前に適切な治療を開始できれば、定期的に通院しながら今までとほぼ同じ生活を送ることが可能です。HIV に感染しているかどうかは、HIV 検査を受けないとわかりません。早期発見・早期治療が AIDS 発症防止や感染拡大防止にも結びつくことから、保健所（無料・匿名）や拠点病院（一律 1000 円）などでの HIV 検査を積極的に利用することが望まれます。

HIV 検査普及週間（6 月 1 日～6 月 7 日）では、

岡山県内の保健所・支所で、

定例日以外や夜間等に検査を実施しています。

- * 検査は無料・匿名で受けることができます。
- * 通常検査では 1 週間後、迅速検査では 1 時間後に結果をお知らせしています。
- * 岡山県の保健所（岡山市・倉敷市を除く）では、梅毒・性器クラミジア・B 型肝炎・C 型肝炎の検査も同時に受けることができます。
- * 検査は、感染機会のあった日から、3 ヶ月経過していることが必要です。
- * いずれの保健所も予約が必要です。

○県内 11 カ所の保健所・支所における HIV 検査普及週間関連検査の日時、予約方法などはこちらから

[【平成 27 年度 保健所における HIV 検査普及週間関連検査等実施日時】](#)

県内 10 カ所のエイズ治療拠点病院でも検査を受けられます。

○エイズ治療拠点病院における検査日時はこちらから

[【平成 27 年度 エイズ治療拠点病院における検査実施日時】](#)

- * いずれの拠点病院でも一律 1000 円で受けられます（要予約）。
- * 検査は匿名では受けられませんが、検査結果は受けた日（約 1～2 時間後）にお知らせしています。
- * 検査は感染の機会のあったとおもわれる日から、8 週間以上経過していることが必要です。

【参 考】

後天性免疫不全症候群（エイズ AIDS）とは

AIDS は、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染することによっておこる病気ですが、HIV 感染＝AIDS というものではありません。HIV 感染後、自覚症状のない時期（無症候期）が数年続き、さらに進行すると、免疫が低下し、本来なら発症しない病気（日和見感染症）などを発症するようになります。抵抗力が落ちることなどで発症する疾患のうち、代表的な 23 の指標となる疾患が決められており、これらを発症した時点で、AIDS 発症と診断されます。現在はさまざまな治療薬が出ており、きちんと服薬することで AIDS 発症を予防することが可能になっています。

HIV に感染すると、通常 6～8 週間経過して、血液中に HIV 抗体が検出されます。感染初期にはインフルエンザに似た症状が出ることもありますが、こういった症状からだけでは HIV に感染しているかどうかを確認することはできません。HIV 検査を受けてはじめて、感染の有無を確認することができます。

◎感染経路

HIV の感染経路は、次の 3 つです。

- 1) 性行為による感染…相手がウイルスをもっていると、粘膜や傷口から感染します。
- 2) 血液を介しての感染…注射の回し打ちなどによって感染します。
- 3) 母親から赤ちゃんへの母子感染…母親が HIV に感染している場合、妊娠中や出産時、また母乳から感染することがあります。日本では、母親が HIV 感染症の治療薬を飲むこと、帝王切開での出産、母乳を与えないことなどで、赤ちゃんへの感染を 1 % 以下に抑えることができます。

[・エイズ Q&A（エイズ予防情報ネット）](#)

◎予防方法

性行為におけるコンドームの正しい使用は、HIV 感染／AIDS 予防にとって最も有効な手段です。HIV の感染力は弱く、性行為以外の社会生活のなかでうつることはまずありません。

インフルエンザ週報 2015 年 第 21 週 (5 月 18 日 ~ 5 月 24 日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』を解除しました。(5 月 28 日)

【お知らせ】今シーズンにおける定期的なインフルエンザ情報は、今週（第 21 週）をもって終了いたします。

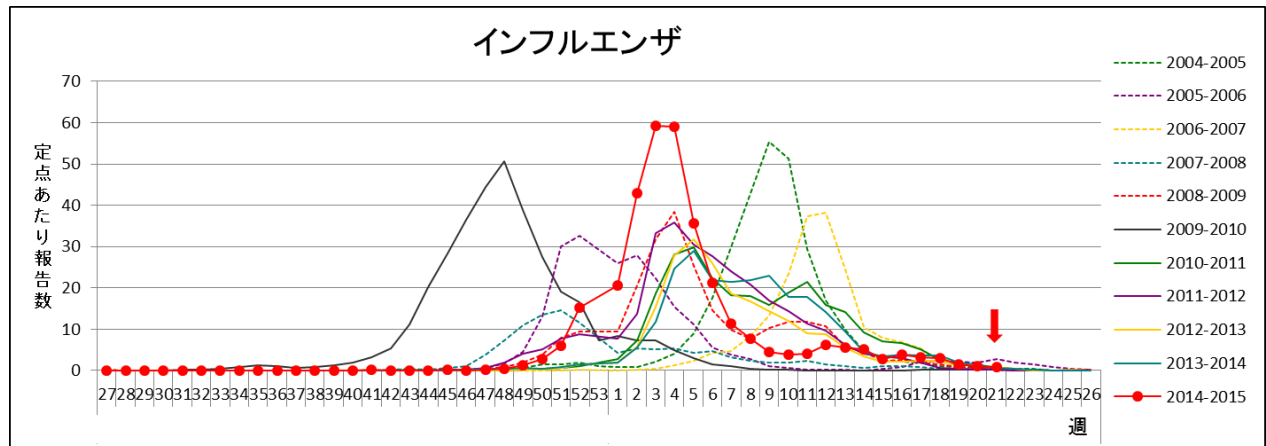
2015/16 年シーズンは、2015 年 11 月頃からの掲載を予定しています。

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 68 名（定点あたり 0.96 → 0.81 人）の報告があり、前週より減少しました。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 4 施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。

【第 22 週 速報】

- 高梁市内の小学校 1 校で、インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業がありました。(5 月 27 日)



インフルエンザは、県全体で 68 名（定点あたり 0.96 → 0.81 人）の報告があり、前週より減少しました（8 定点医療機関報告）。

岡山県では、県全体の定点あたり報告数が第 20 週（0.96 人）、第 21 週（0.81 人）と 2 週連続して 1 人を下まわったため、2014 年 12 月 11 日に発令された「インフルエンザ注意報」は、5 月 28 日をもって解除されました。

地域別では、倉敷市及び美作地域で患者の増加がみられましたが、その他のほとんどの地域で減少しました。倉敷市（1.56 人）、備北地域（1.17 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

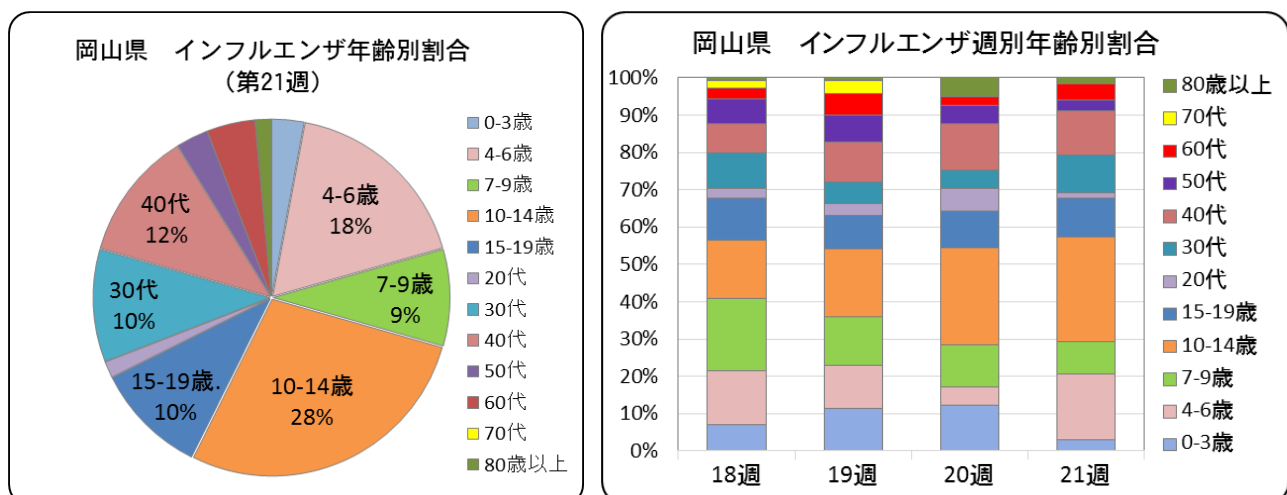
インフルエンザの流行は終息したと思われませんが、定点あたり 1 人を上まわっている地域もあり、学校等の臨時休業も報告されています。注意報は解除になりましたが、ひきつづき手洗いなど日常における感染予防を心がけましょう。

※注意報の解除基準： 2 週連続して、県全体の定点あたり報告数が 1 人を下まわった場合

[インフルエンザ Q&A \(厚生労働省\)](#)

1. 年齢別発生状況

第 21 週の年齢別割合は、10-14 歳が全体の 28%と最も高く、4-6 歳 18%、40-49 歳 12%の順となっています。幼稚園児・小学生・中学生・高校生に該当する年齢層が患者の多くを占めていますので、ひきつづき集団生活の中での感染に注意してください。



2. 地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	68		備 中	患者数	8	
	定点あたり	0.81			定点あたり	0.67	
岡山市	患者数	11		備 北	患者数	7	
	定点あたり	0.50			定点あたり	1.17	
倉敷市	患者数	25		真 庭	患者数	2	
	定点あたり	1.56			定点あたり	0.67	
備 前	患者数	6		美 作	患者数	9	
	定点あたり	0.40			定点あたり	0.90	

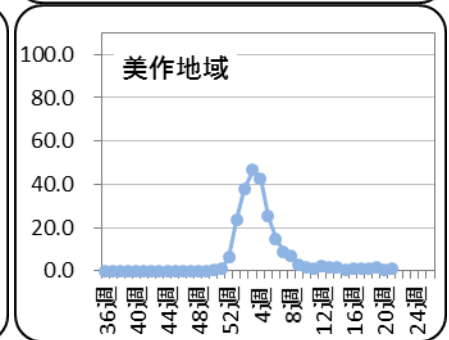
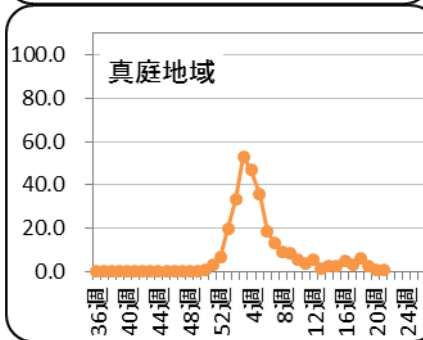
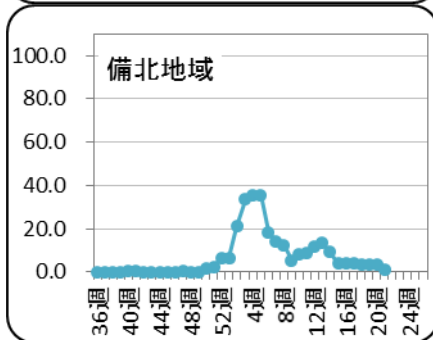
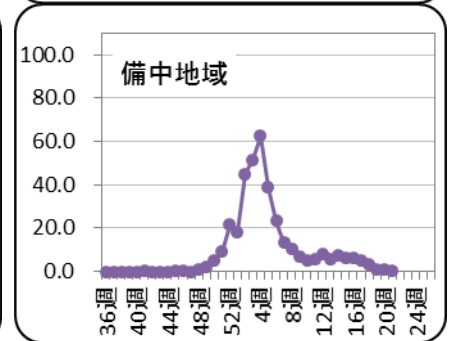
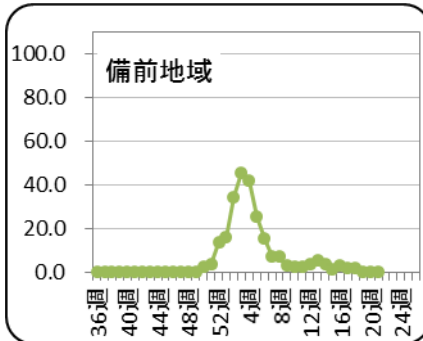
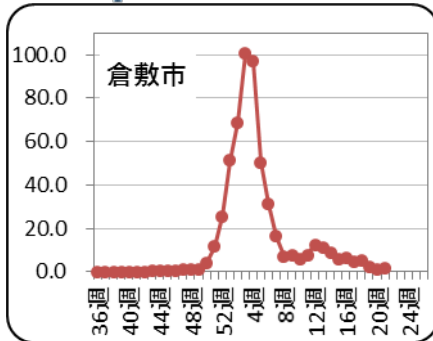
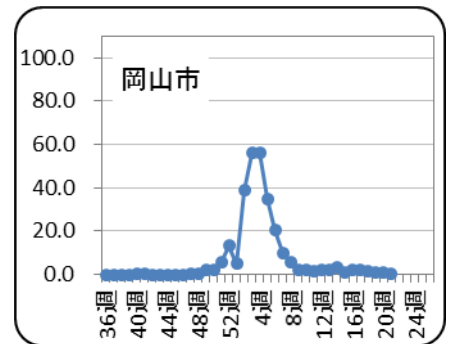
【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少
 1.1～2倍未満の減少
 1.1～2倍未満の増加
 2倍以上の増加

インフルエンザ感染症マップ

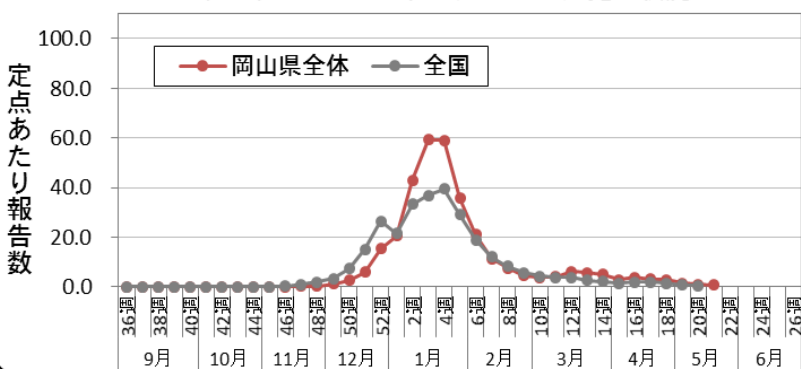


<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10以上 30未満
レベル1		報告なし
基準値		基準値
0< 10未満		0



(人) 2014/15年シーズン インフルエンザ発生状況



全国の第20週（5/11～5/17）集計によると、全国の定点あたり報告数は0.59人であり、前週（0.71人）より減少しました。都道府県別では、沖縄県（4.55人）、福井県（1.91人）、秋田県（1.70人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、28都道府県で前週よりも減少しました。

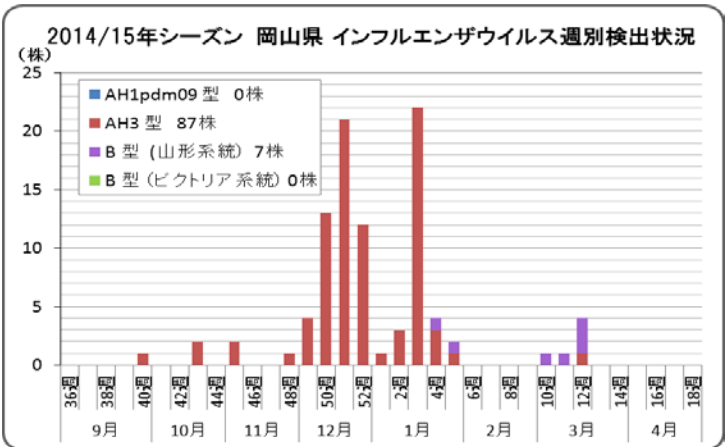
3. インフルエンザウイルス検出状況

第 21 週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、ありませんでした。今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3 型が 87 株（93%）、B 型が 7 株（7%）となっています。

岡山県 インフルエンザウイルス分離・検出状況

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、岡山県と同様、AH3 型の検出割合が最も高く 87%、次いで B 型が 12%、AH1pdm09 型が 1% の順となっています。しかし、最近 5 週間（第 16 週～20 週）の検出割合は、B 型、AH3 型の順に高くなっています。（2015 年 5 月 28 日現在）

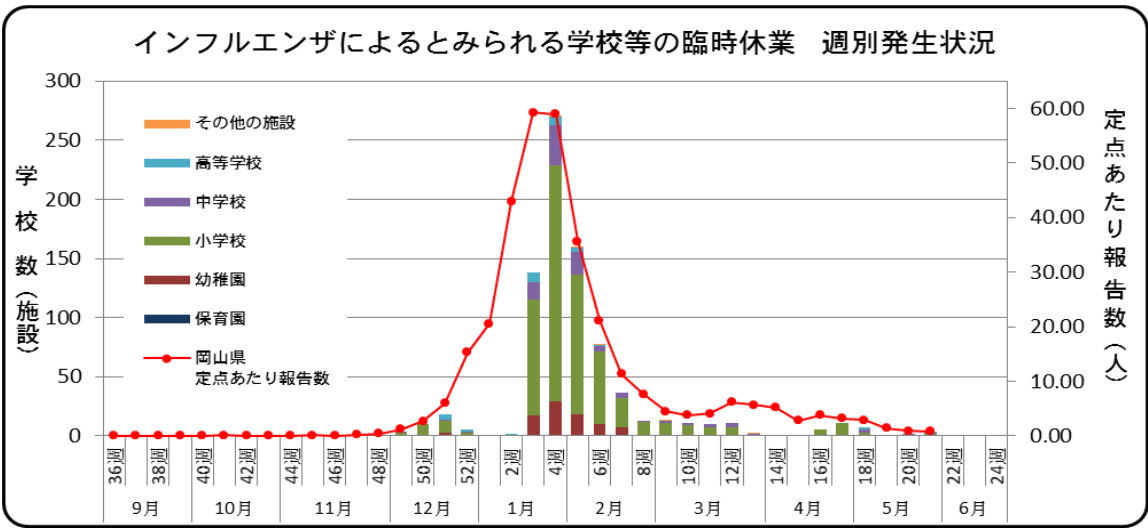
インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所）



4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 4 施設でありました。

【第 21 週 臨時休業施設数】 ▽岡山市 2 ▽玉野市 1 ▽高梁市 1



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	45	12794	38	9964	4	817	0	18	2	211	2	588	H26.10.21
岡山市	27	5194	23	3884	2	307	0	2	0	43	2	262	H26.12.1
倉敷市	0	3035	0	2478	0	167	0	3	0	26	0	138	H26.10.21
備前地域	9	807	8	681	1	68	—	—	1	26	0	42	H26.12.9
備中地域	0	1653	0	1321	0	134	0	5	0	55	0	74	H26.12.8
備北地域	9	373	7	209	1	16	0	1	1	9	0	6	H27.1.16
真庭地域	0	308	0	242	0	26	0	3	0	14	0	9	H26.12.16
美作地域	0	1424	0	1149	0	99	0	4	0	38	0	57	H27.1.13

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2) 臨時休業施設数の内訳

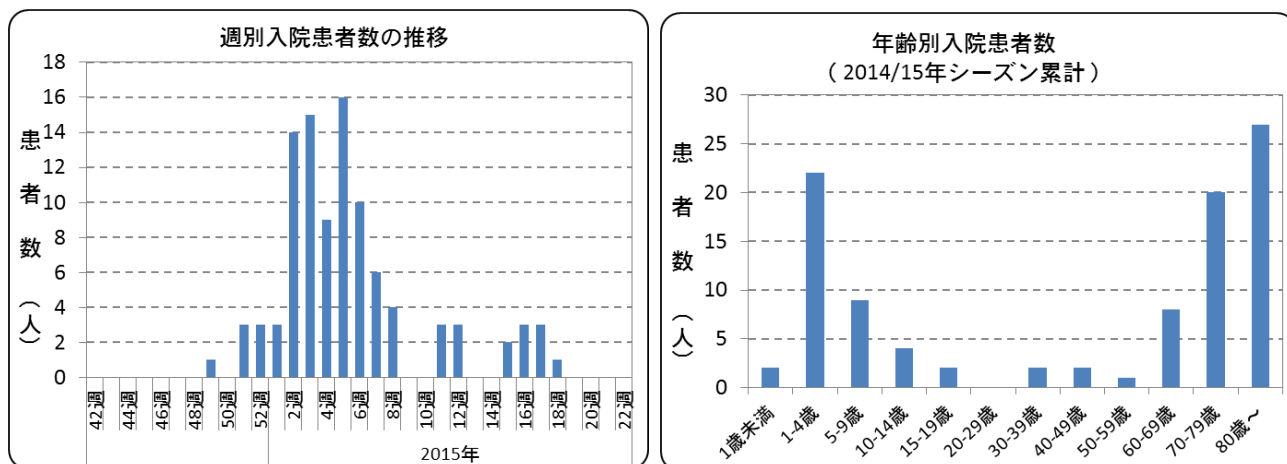
第 21 週：4 施設 累計：817 施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	0	86	2	599	1	99	1	28	0	5

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者の報告は、ありませんでした。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



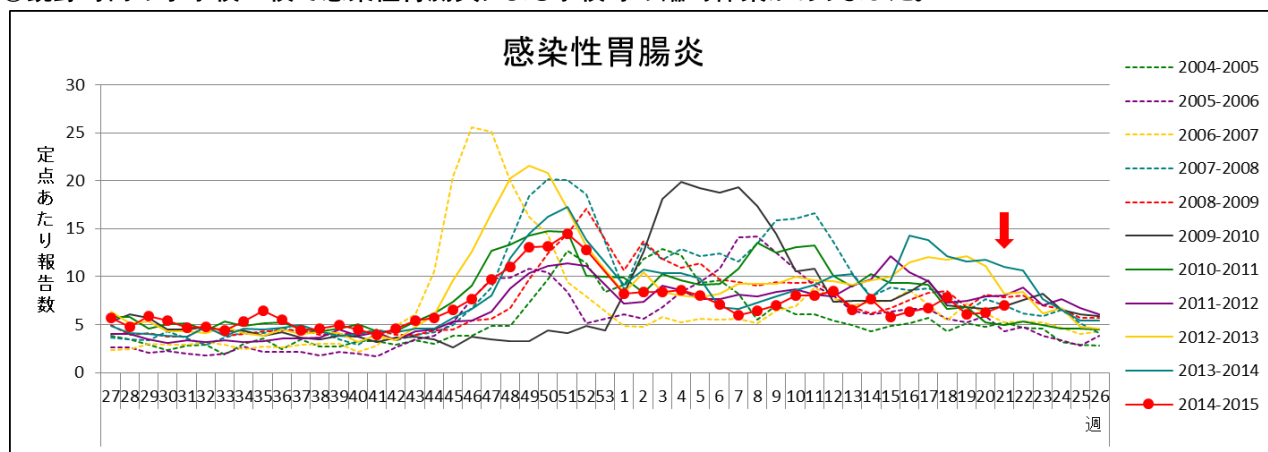
【2014 年 9 月 1 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1 歳未満	1～4 歳	5～9 歳	10～14 歳	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計 *
入院患者数	2	22	9	4	2		2	2	1	8	20	27	99
ICU 入室											3		3
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査 (予定含)		5		1						2	4	3	15
頭部 MRI 検査 (予定含)		1		1							3		5
脳波検査 (予定含)		1									1		2
いずれにも該当せず	2	17	9	2	2		2	2	1	6	14	24	81

* 重複あり

感染性胃腸炎週報 2015年 第21週 (5月18日～5月24日)

- 感染性胃腸炎は、県全体で379名（定点あたり6.24 → 7.02人）の報告がありました（54定点医療機関報告）。
- 鏡野町内の小学校1校で感染性胃腸炎による学校等の臨時休業がありました。

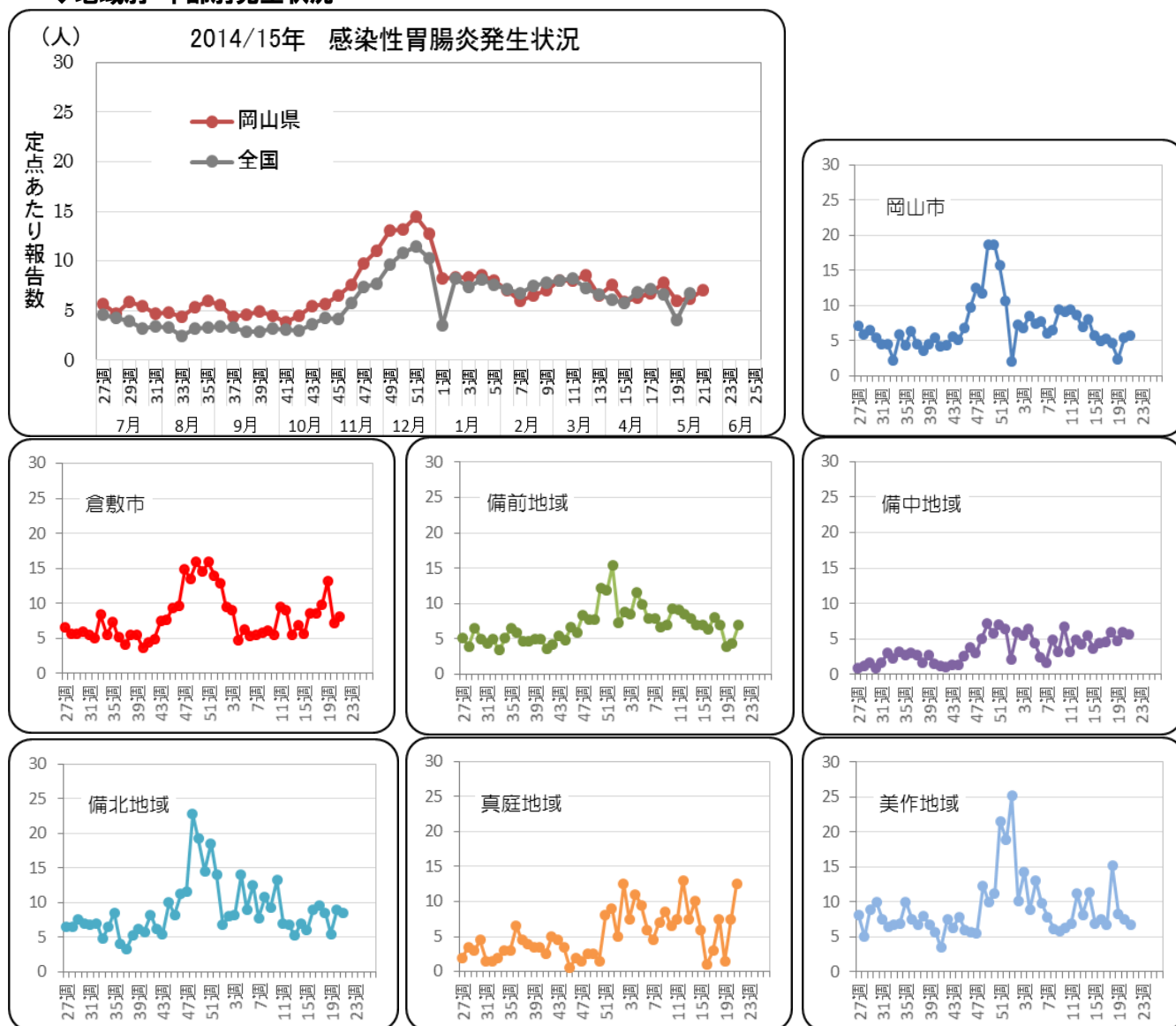


※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

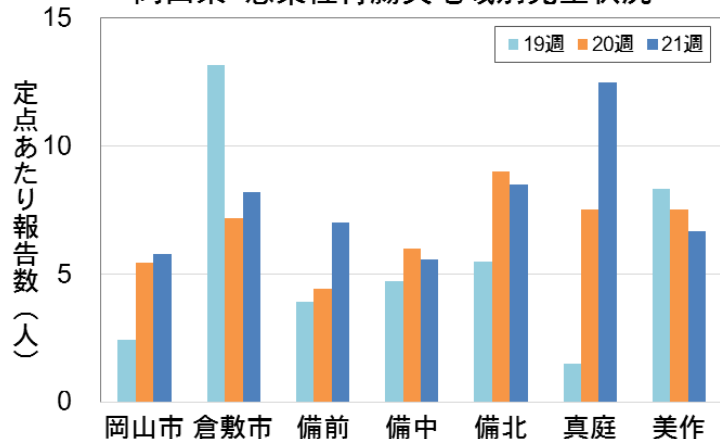
感染性胃腸炎は、県全体で379名（定点あたり6.24 → 7.02人）の報告があり、前週より増加しました。

冬から春にかけての感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。排便後や調理・食事の前には石けんと流水で十分に手を洗う、下痢便・嘔吐物は適切に処理をするなど、感染予防と拡大防止に努めてください。

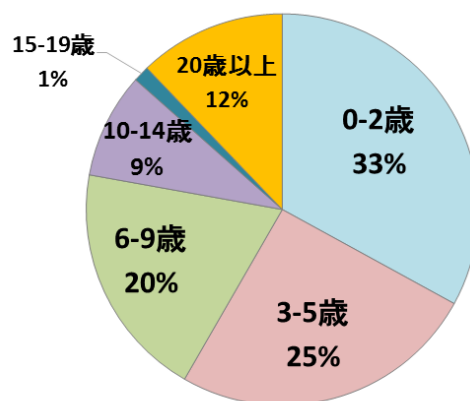
◆地域別・年齢別発生状況



岡山県 感染性胃腸炎地域別発生状況



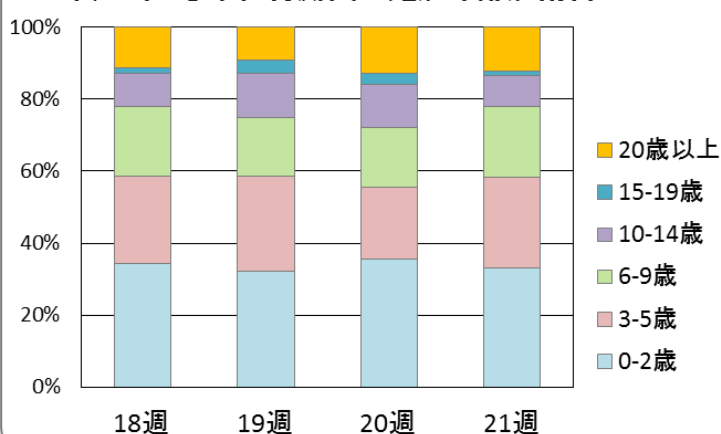
感染性胃腸炎 第21週年齢別割合



地域別では、真庭地域(1.50→7.50→12.50 人)で、2週連続で定点あたり報告数が大きく増加しました。真庭地域(12.50 人)、備北地域(8.50 人)、倉敷市(8.18 人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。年齢別割合では、5歳以下の乳幼児が全体の58%を占めています。

例年3～5月には、0～2歳の乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎が増加するとされています。主な症状は嘔吐と下痢で、ノロウイルスによる胃腸炎に比べ重症度が高いといわれています。嘔吐や下痢により脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

岡山県 感染性胃腸炎 週別年齢別割合



[IASR Vol.35 p.63-64: 2014 年 3 月号 ロタウイルス 2010～2013 年 \(国立感染症研究所\)](#)

◎ウイルスによる感染性胃腸炎に注意しましょう。

- * 石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。
- * 患者の嘔吐物や下痢便を処理する際には、自分が感染しないように、使い捨ての上着やマスク、手袋を着用しましょう。
- * 嘔吐物や下痢便で汚れた衣類は、塩素系漂白剤などを使った消毒も、併せて行いましょう。
- * 通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともあります。体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

[ロタウイルスに関する Q&A \(厚生労働省\)](#)
[ノロウイルスに関する Q&A \(厚生労働省\)](#)

保健所別報告患者数(定点把握) 2015年 21週

(2015/05/18～2015/05/24)

2015年5月28日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	68	0.81	11	0.50	25	1.56	6	0.40	8	0.67	7	1.17	2	0.67	9	0.90
RSウイルス感染症	5	0.09	1	0.07	3	0.27	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	22	0.41	9	0.64	4	0.36	—	—	7	1.00	2	0.50	—	—	—	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	73	1.35	19	1.36	16	1.45	1	0.10	9	1.29	17	4.25	1	0.50	10	1.67
感染性胃腸炎	379	7.02	81	5.79	90	8.18	70	7.00	39	5.57	34	8.50	25	12.50	40	6.67
水痘	7	0.13	1	0.07	5	0.45	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
手足口病	74	1.37	22	1.57	16	1.45	10	1.00	8	1.14	4	1.00	7	3.50	7	1.17
伝染性紅斑	10	0.19	8	0.57	1	0.09	—	—	—	—	—	—	1	0.50	—	—
突発性発疹	16	0.30	9	0.64	3	0.27	1	0.10	1	0.14	1	0.25	—	—	1	0.17
百日咳	2	0.04	—	—	—	—	—	—	1	0.14	—	—	—	—	1	0.17
ヘルパンギーナ	18	0.33	4	0.29	3	0.27	—	—	10	1.43	—	—	—	—	1	0.17
流行性耳下腺炎	19	0.35	5	0.36	1	0.09	3	0.30	3	0.43	—	—	1	0.50	6	1.00
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	2	0.17	2	0.40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数（発生レベル設定疾患）2015年 21週

（ 2015/05/18～2015/05/24 ）

2015年5月28日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	68	0.81	11	0.50	25	1.56	6	0.40	8	0.67	7	1.17	2	0.67	9	0.90
咽頭結膜熱	22	0.41	9	0.64	4	0.36	—	—	7	1.00	2	0.50	—	—	—	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	73	1.35	19	1.36	16	1.45	1	0.10	9	1.29	17	4.25	1	0.50	10	1.67
感染性胃腸炎	379	7.02	81	5.79	90	8.18	70	7.00	39	5.57	34	8.50	25	12.50	40	6.67
水痘	7	0.13	1	0.07	5	0.45	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
手足口病	74	1.37	22	1.57	16	1.45	10	1.00	8	1.14	4	1.00	7	3.50	7	1.17
伝染性紅斑	10	0.19	8	0.57	1	0.09	—	—	—	—	—	—	1	0.50	—	—
百日咳	2	0.04	—	—	—	—	—	—	1	0.14	—	—	—	—	1	0.17
ヘルパンギーナ	18	0.33	4	0.29	3	0.27	—	—	10	1.43	—	—	—	—	1	0.17
流行性耳下腺炎	19	0.35	5	0.36	1	0.09	3	0.30	3	0.43	—	—	1	0.50	6	1.00
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	2	0.17	2	0.40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2015年 第21週 2015/05/18～2015/05/24)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	68	-	-	-	1	1	3	4	5	-	-	6	19	7	1	7	8	2	3	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	5	2	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	22	-	2	5	3	4	1	2	2	3	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	73	-	-	4	1	7	6	11	6	10	2	8	11	1	6
感染性胃腸炎	379	2	23	61	39	39	31	26	28	14	14	18	33	5	46
水痘	7	1	1	2	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	74	-	3	24	20	11	6	3	4	1	1	-	1	-	-
伝染性紅斑	10	-	-	1	-	2	-	3	1	1	-	-	2	-	-
突発性発疹	16	-	5	9	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ヘルパンギーナ	18	-	3	7	2	1	3	-	1	-	1	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	19	-	-	1	2	3	3	3	1	3	1	1	1	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-

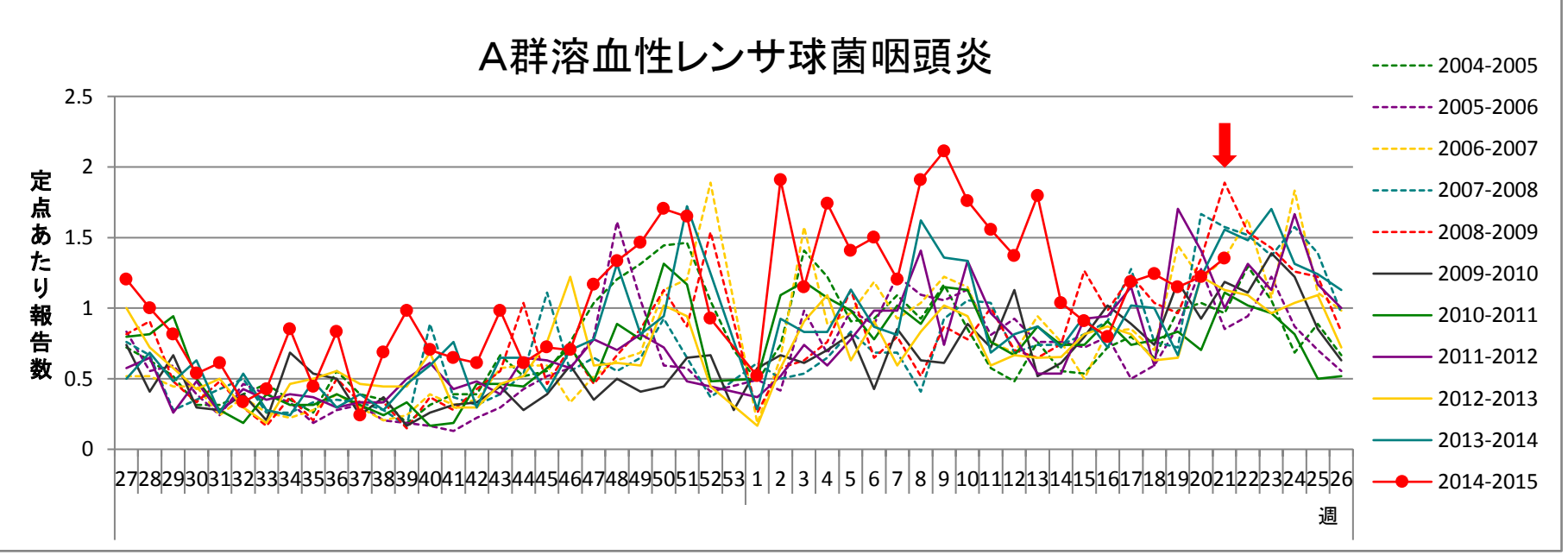
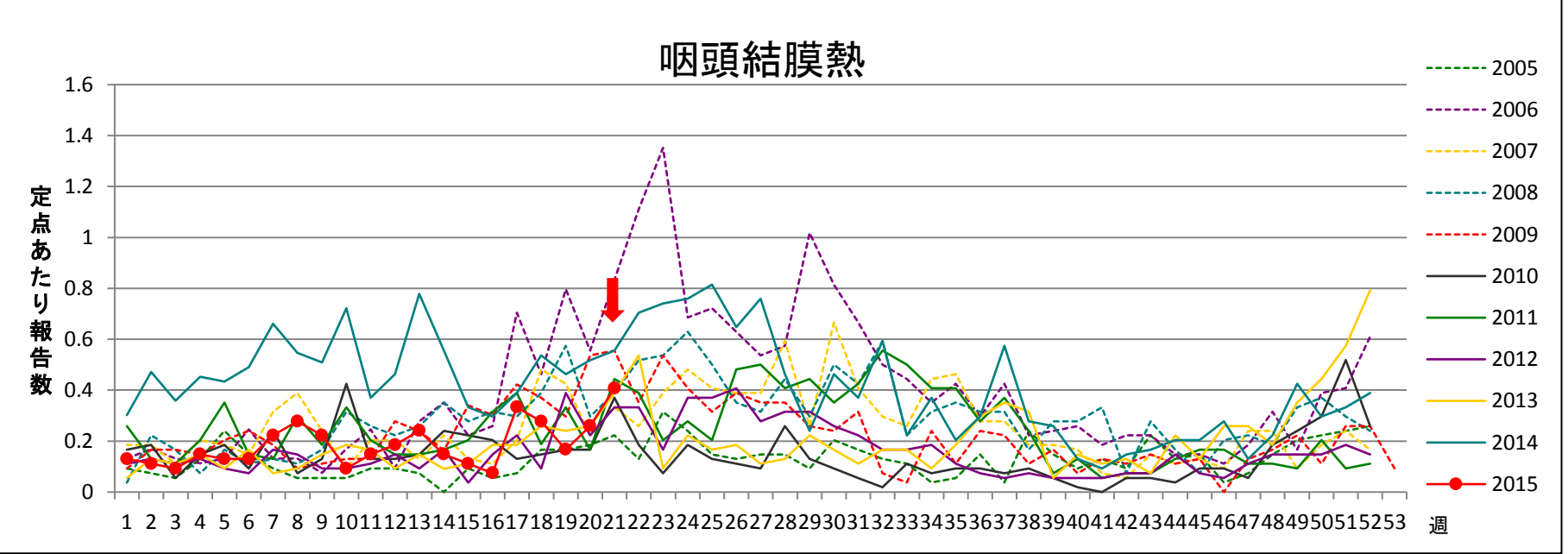
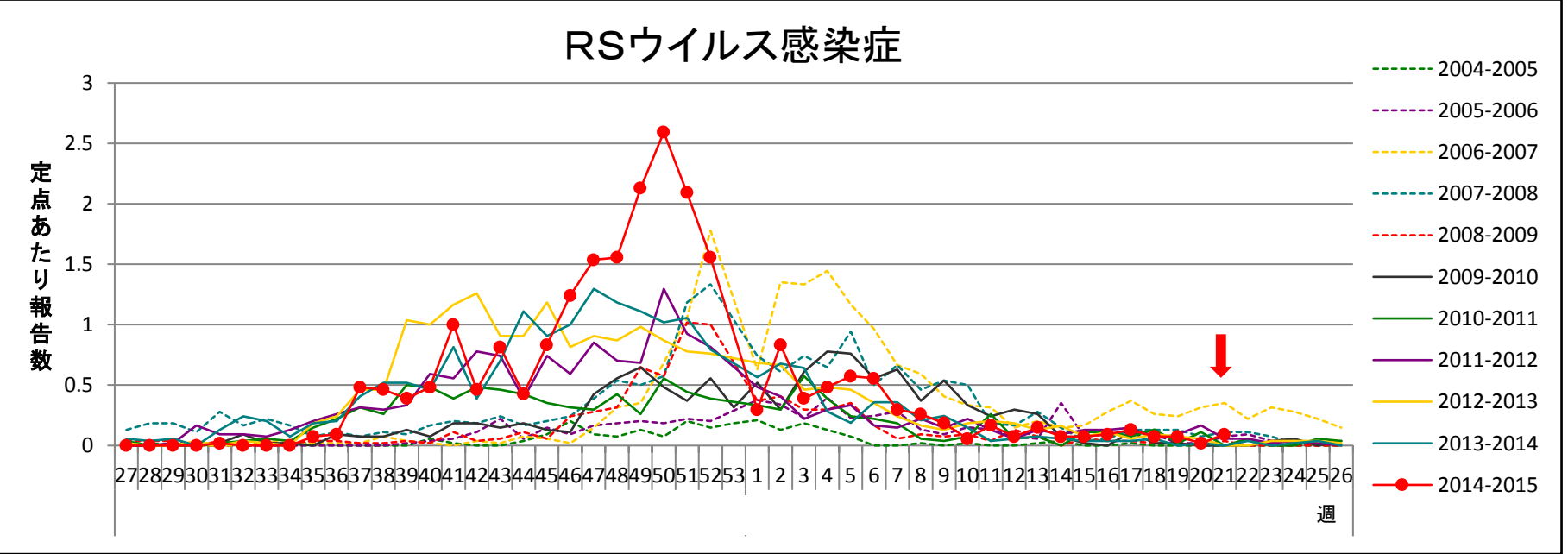
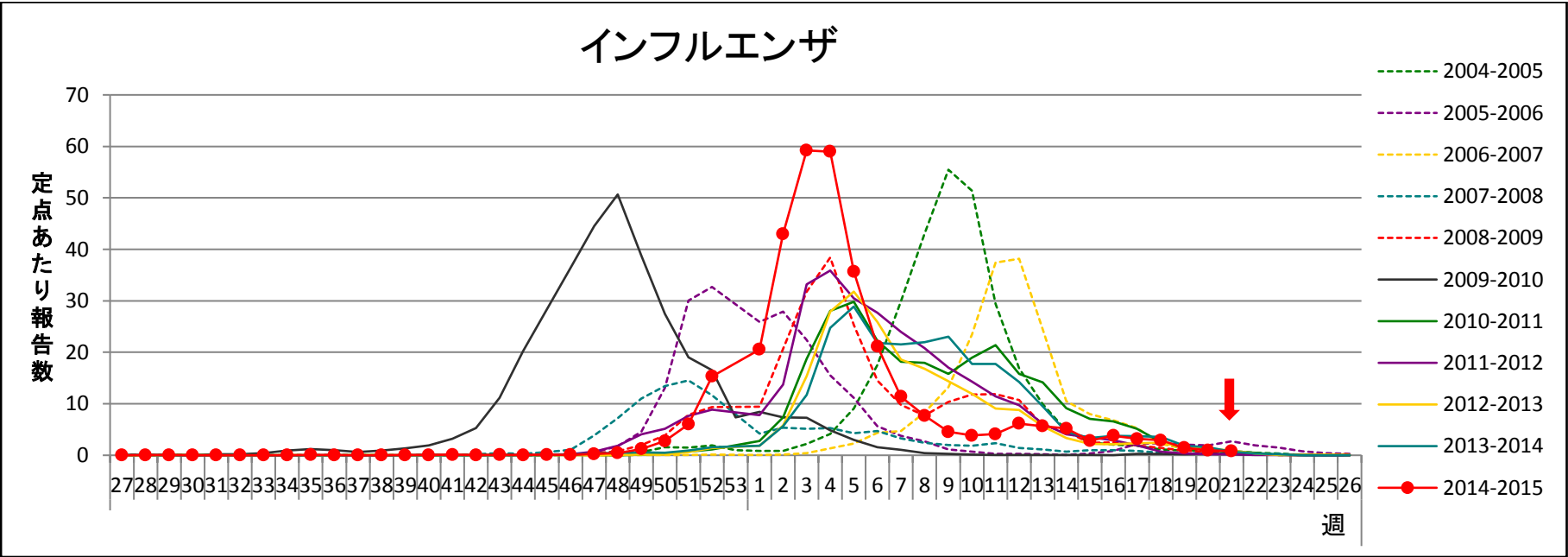
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

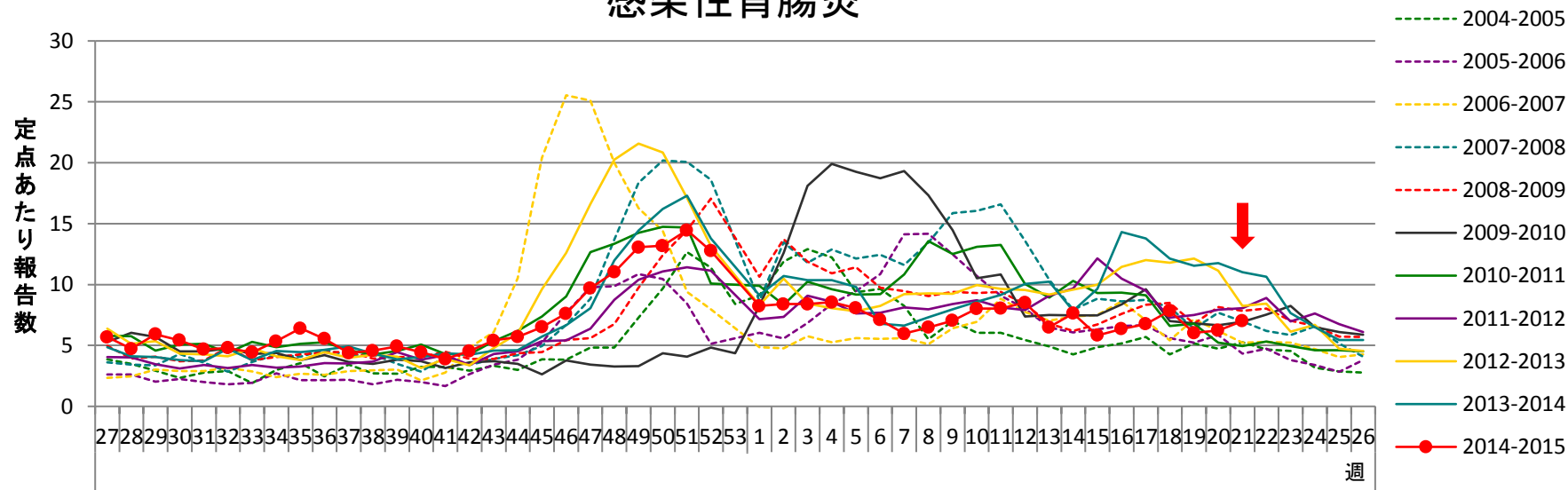
全数把握 感染症患者発生状況

2015 年 21 週

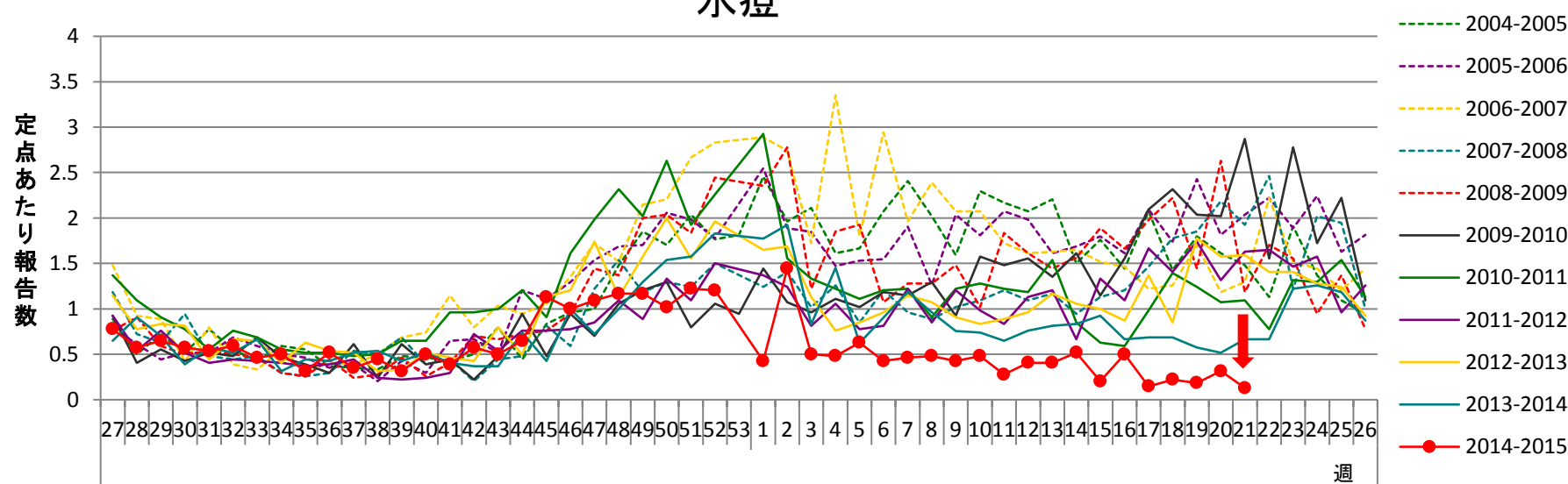
分類	疾病名	2015		2014 昨年	疾病名	2015		2014 昨年	疾病名	2015		2014 昨年
		今週	累計			今週	累計			今週	累計	
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	5	119	384	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	1	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	3	71
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	1	1	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	5	8
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	1	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	2	腎症候性出血熱	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-
	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2	デング熱	-	-	1
	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-
	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	4	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-
	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-	野兎病	-	-	-
	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-
	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	8	32	レプトスピラ症	-	-	-
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
五類	アメーバ赤痢	1	9	12	ウイルス性肝炎*3	-	3	7	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	1	16	12
	急性脳炎*4	-	6	9	クリプトスポリジウム症	-	1	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	3	後天性免疫不全症候群	-	9	21	ジアルジア症	-	-	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	18	27
	水痘(入院例に限る。)	-	-	6	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	6	21
	播種性クリプトкокクス症	-	1	1	破傷風	-	-	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	2	風しん	-	-	2	麻しん	-	-	6
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-		-	-	-		-	-	-



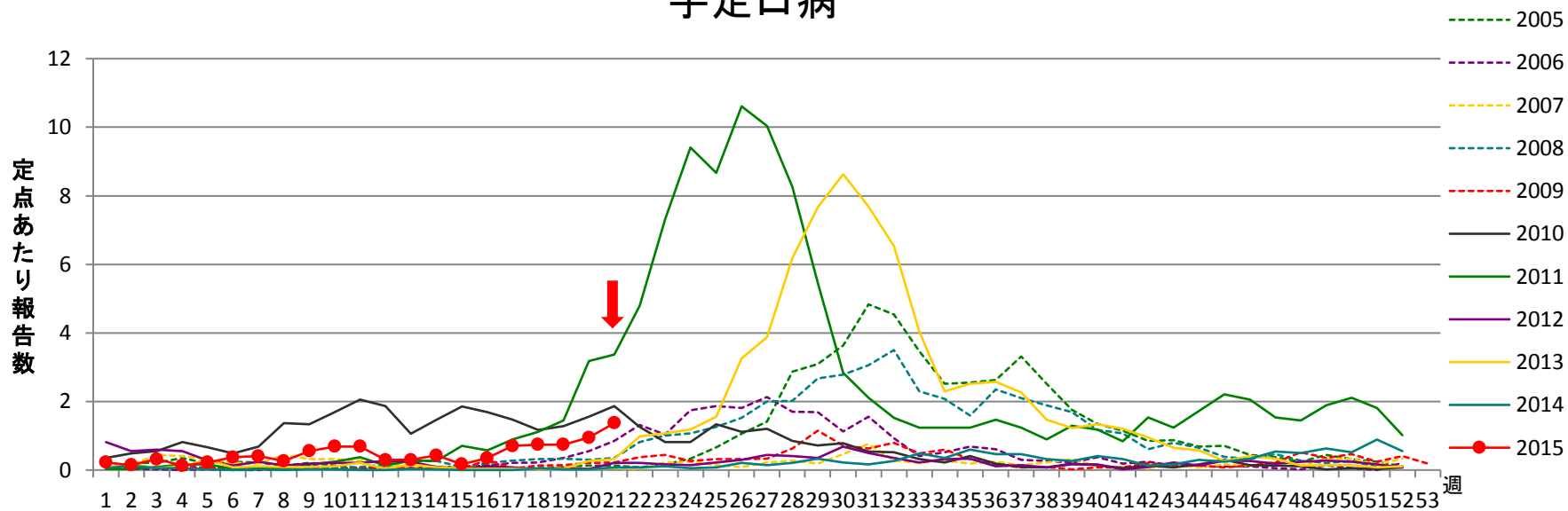
感染性胃腸炎



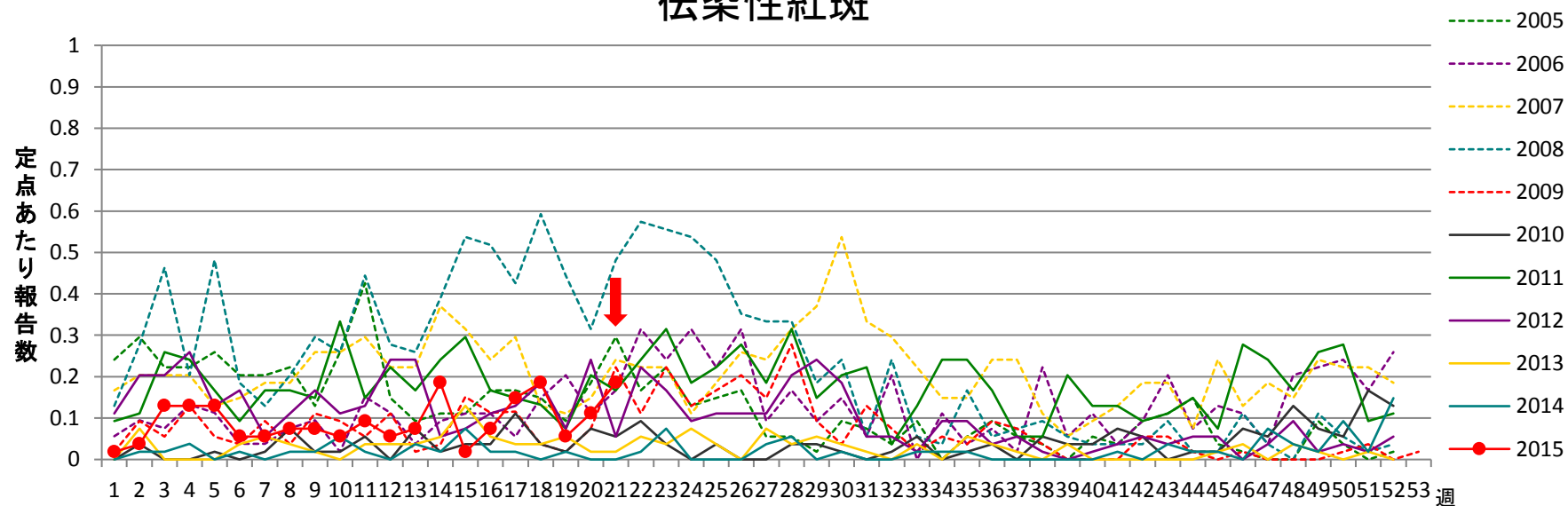
水痘



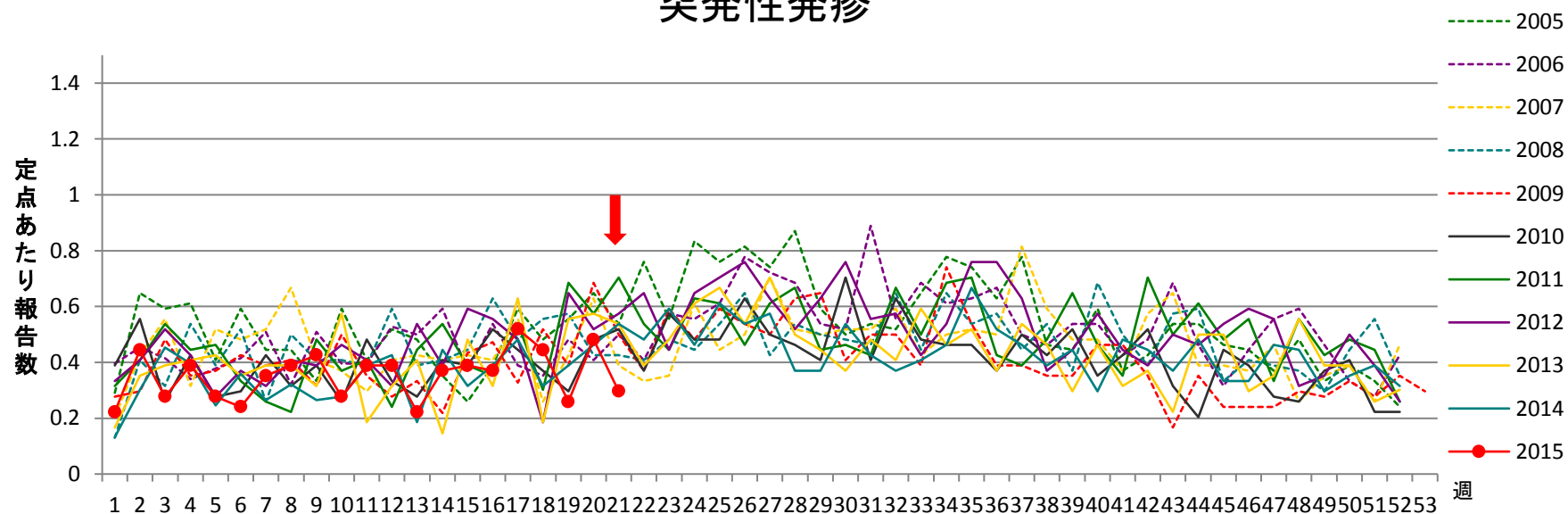
手足口病



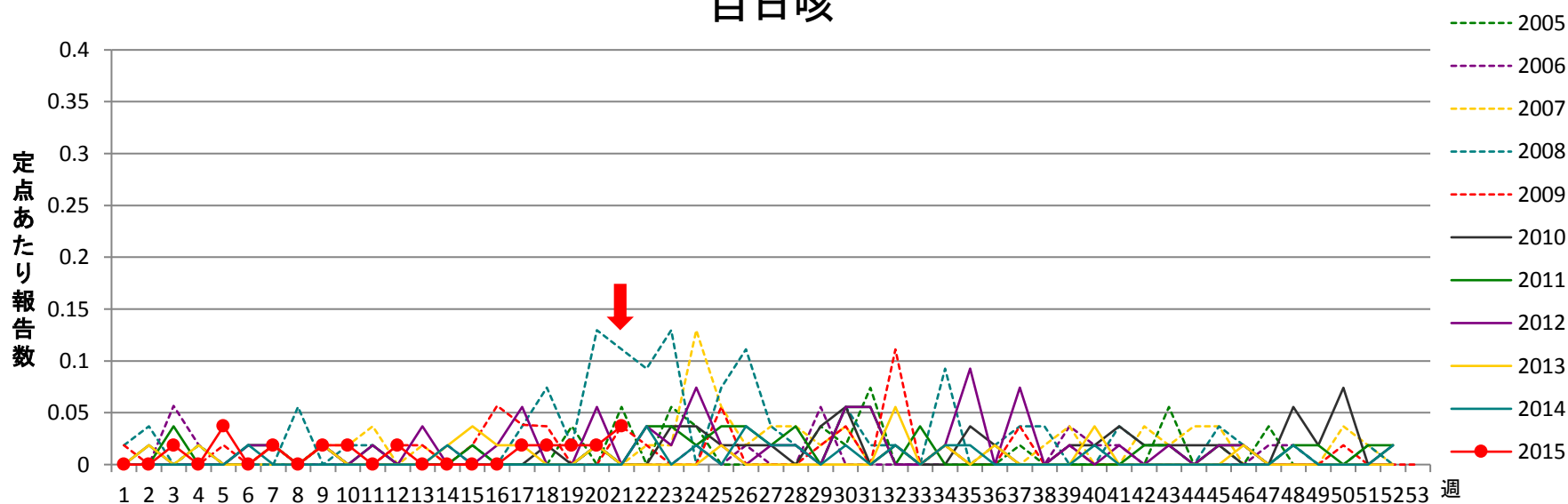
伝染性紅斑



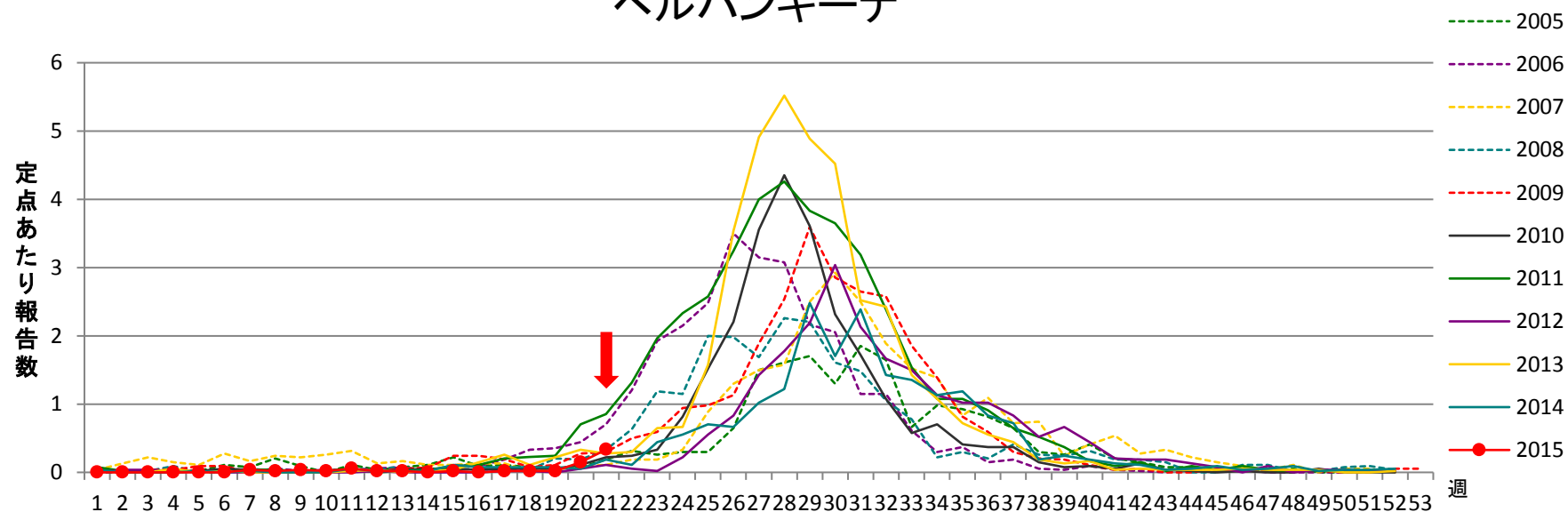
突発性発疹



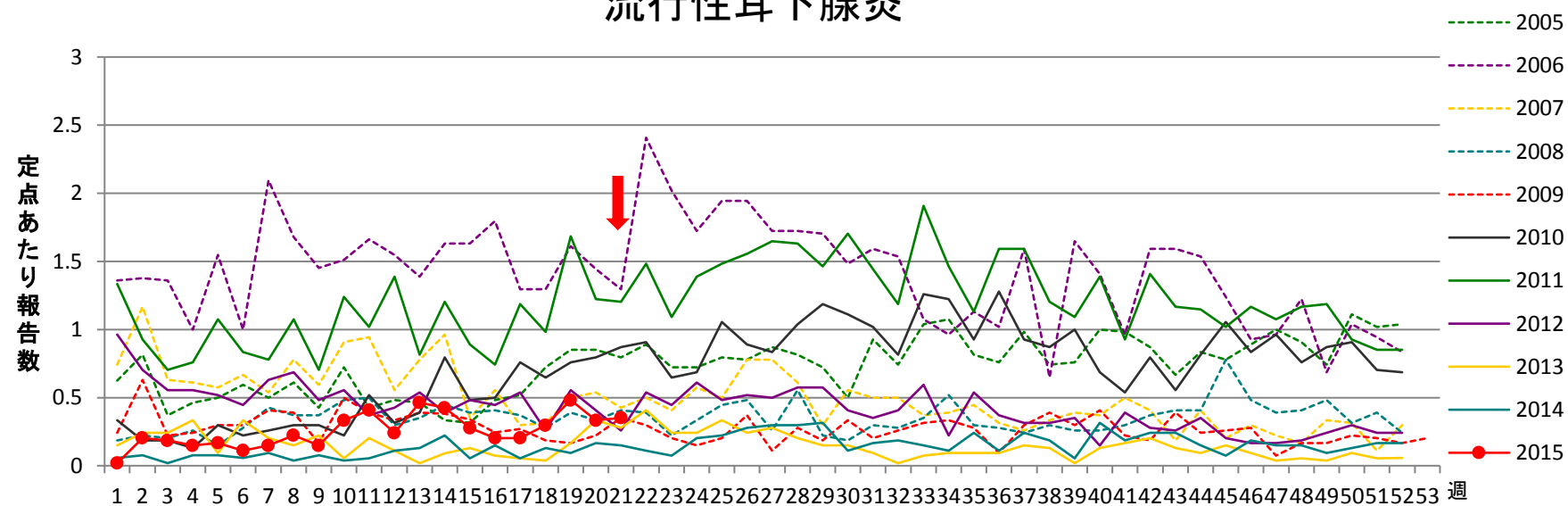
百日咳



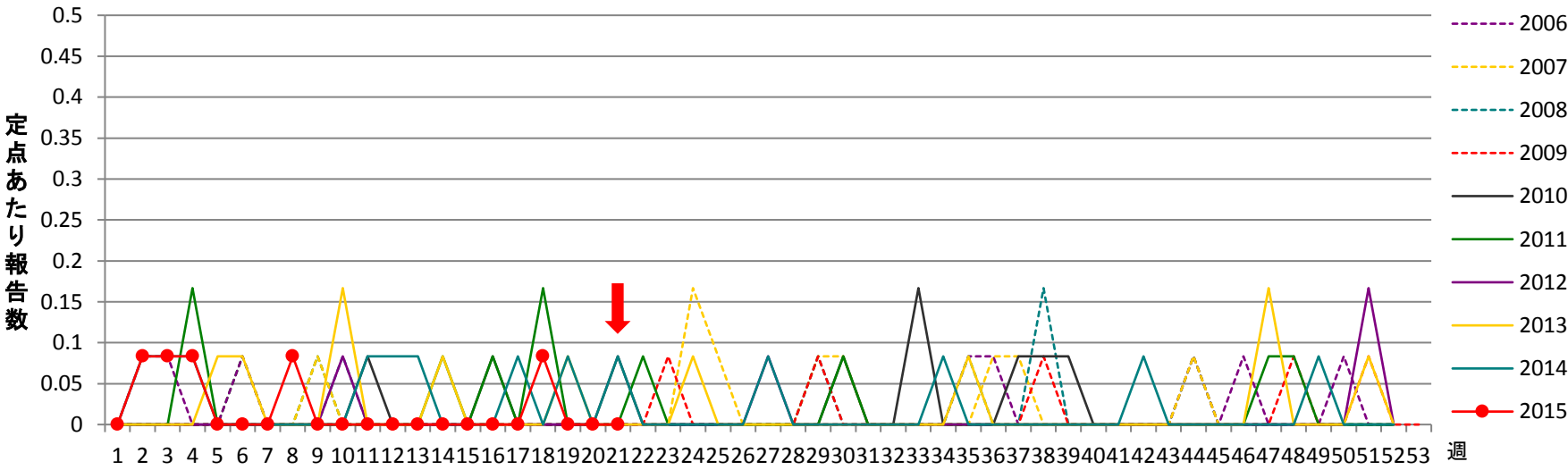
ヘルパンギーナ



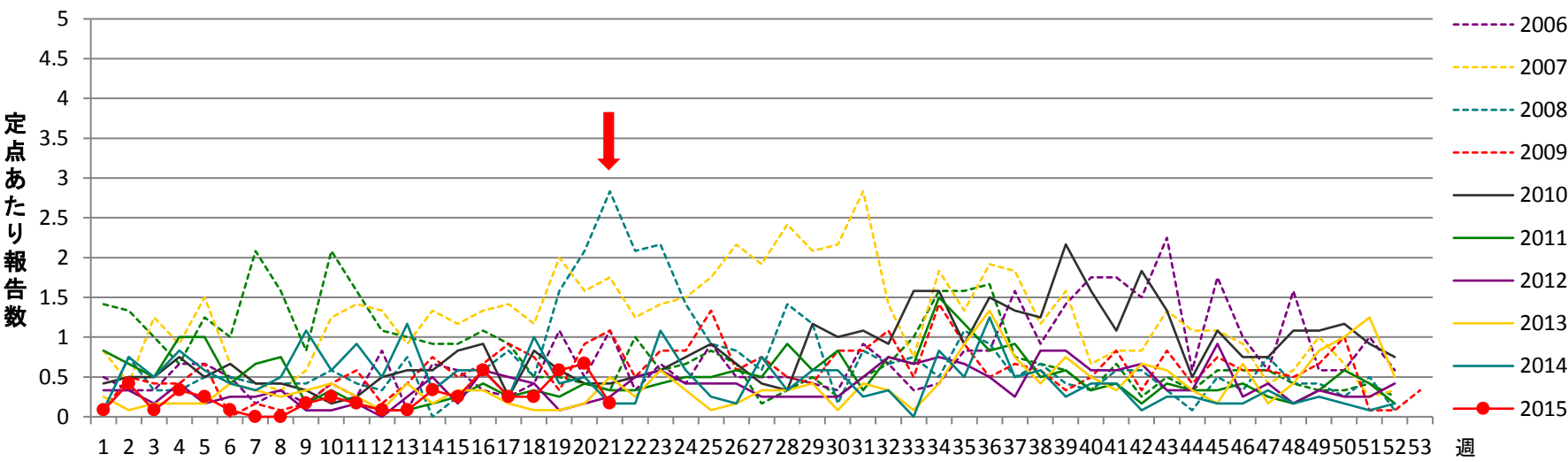
流行性耳下腺炎



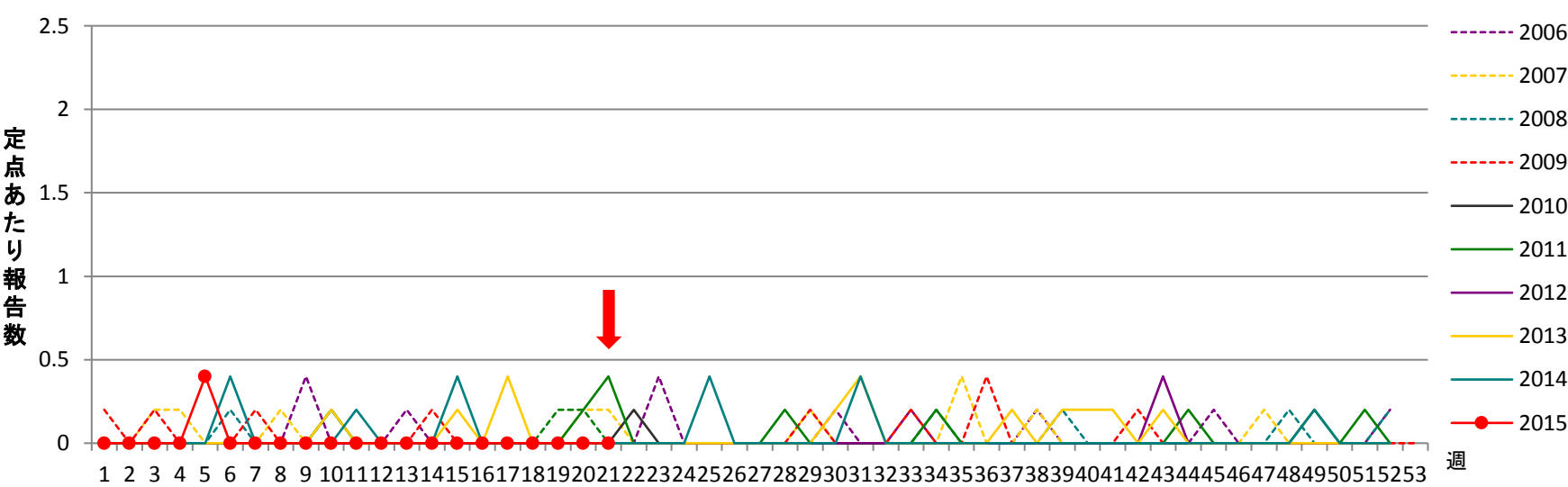
急性出血性結膜炎



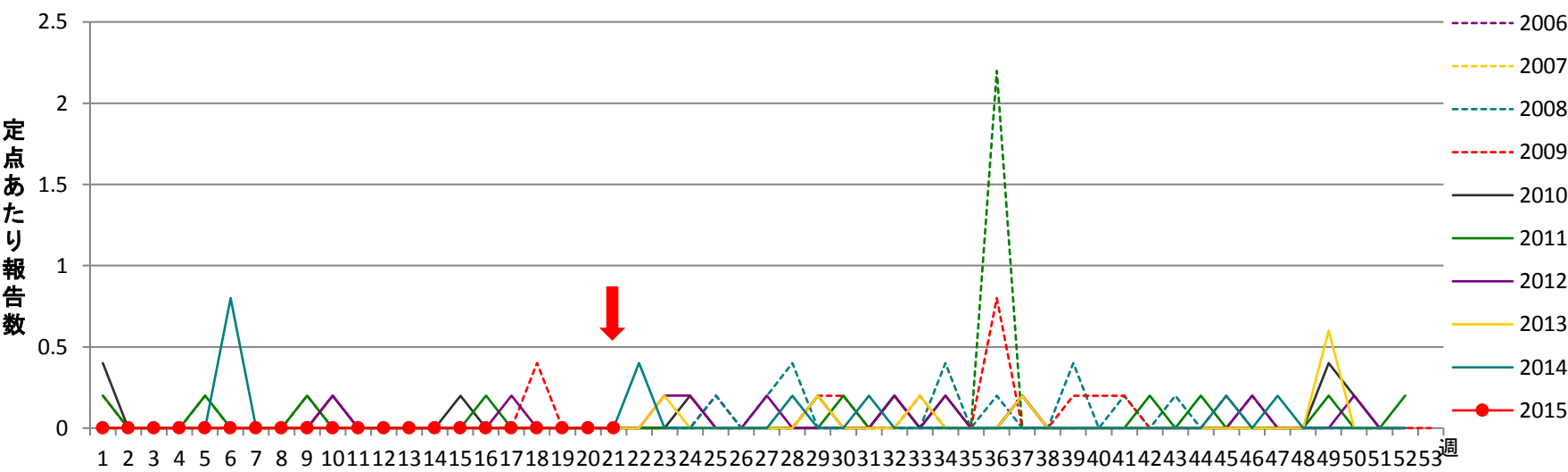
流行性角結膜炎



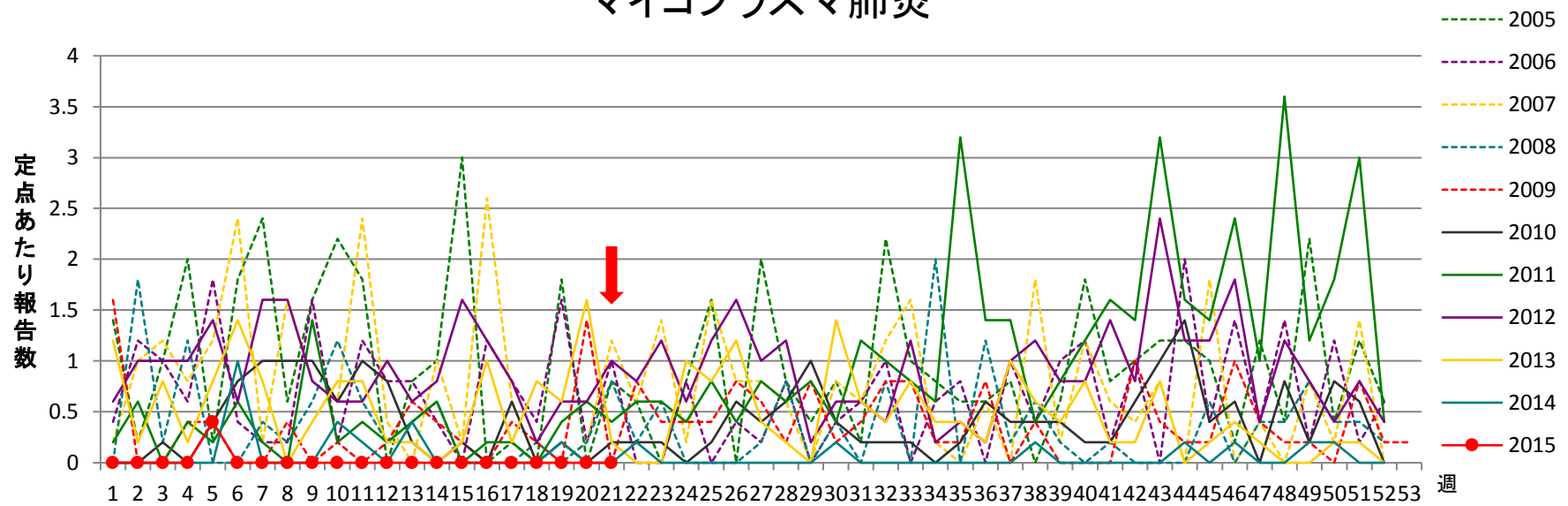
細菌性髄膜炎



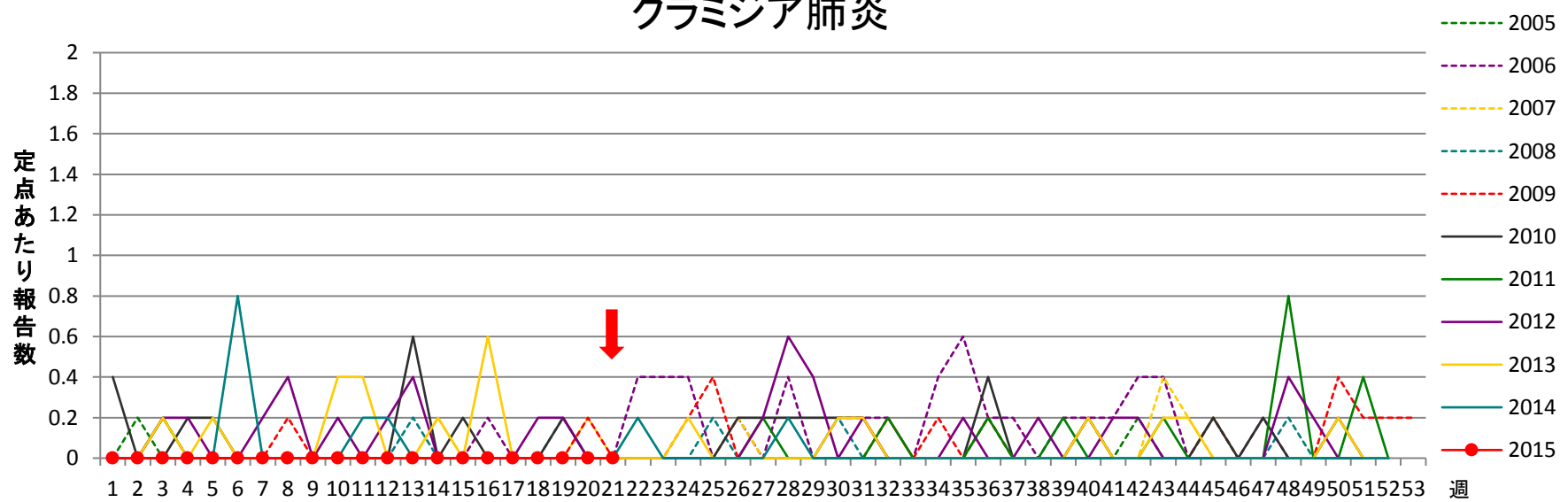
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

